



膠原病医からのスタート

私の経歴は、当院の他の先生方とは異色で、大学を卒業してから10年間は膠原病医としてキャリアを重ねてきました。

皆さんご存じの通り、膠原病は全身の複数の臓器に炎症が起こり、臓器の機能障害をもたらす病気です。人間の体には実にたくさんの臓器・機能がありますが、そのすべてを診ることのできる医者でありたいというのが、私のポリシーでした。今では総合診療科などの看板を掲げている病院もありますが、当時は、すべての臓器を扱うことができるのは膠原病しかありませんでした。それが膠原病医を選んだ最大の理由です。

ただ、実際の膠原病医としての仕事は、自分ひとりで診察・診断を行うというよりも、各専門医が行った診断結果の取りまとめ的な役割を求められることが多く、ジレンマを感じることもありました。そこで、さまざまな病院で修練を重ね、医学の知識・技術を磨いていたのですが、その中で大腸内

視鏡に出会い、その魅力に取りつかれてしまいました。それをきっかけに、消化器内科への道を全力で進んできました。

大腸内視鏡の魅力

肺・胃・腎臓・肝臓…。さまざまな臓器の病気と、その治療法について勉強を重ねたつもりですが、大腸の内視鏡については、いくら学んでも奥が深く、そこに他の臓器にはない魅力とやりがいを感じました。

また、佐野病院は技術力に定評があり、スペシャリストがそろっている病院と、大腸を目指す医師の間では有名でしたので、この分野を極めるためにも、いつかは働いてみたいと目標にしていました。念願かなって佐野病院のスタッフとなった今、あらためて、病院全体のレベルの高さに驚かされています。

自分では、大腸に関するキャリアもそれなりに積んできたつもりでしたが、今までの経験に固執せず、一から「佐野流」を学んでいる最中です。国立がんセンター出身の先生方のレベルに早く追いつくためにも、一人でも多くの患者様の治療に関わりたく、毎日気合を入れて臨んでいます。

ゼネラリストを追求して

当院に勤務して最も刺激を受けたのが、治療のスピードです。これは大学病院などではまず真似できない、当院の大きな武器だと思います。また、ドク

ターはもちろんですが、看護師・技師・事務職員などコメディカルスタッフのレベルも非常に高く、柔軟性も備わっています。一言で言えば、すべての部門がプロフェッショナルなわけです。

このレベルの高い医療環境の中で、まずは大腸がんの早期発見、早期治療に全力を傾けたいと思っています。そして、その役割が十分に果たせるようになれば、最終的には膠原病医としてのキャリアと知識を活かして、自己免疫疾患で苦しむ方の消化器疾患をサポートできればと考えています。

一流の技術をもった内視鏡医でありながら、膠原病医でもある。私のポリシーであるどんな臓器にも造詣が深いゼネラリストとしての色が濃くなってくると思うのですが、逆にゼネラリストというスペシャリストが存在してもいいのではないかと考えています。

私の今までのキャリアと佐野病院の高い技術力がうまく融合した時、当院にとっても新しい強み一つ加わり、ますます多くの人から必要とされる病院となるよう、尽力していきたいと思っています。



【特集】

低侵襲整形外科治療



各交通機関のご紹介

- JR舞子駅・山陽電車 舞子公園駅から 53・54系統 学園都市駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- 神戸市営地下鉄 学園都市駅から 53・54系統 舞子駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- JR垂水駅・山陽電車 山陽垂水駅から 2系統 清水が丘行 清水が丘停留所下車



生活の質を高めるための整形外科治療

整形外科は、生命に直接関わる事が少ないという印象をお持ちの方も多いでしょう。しかし、生活の質を高めるといふ点では非常に重要な診療科です。寝たきりにならず、健康的な生活を送ることのできる「健康寿命」を延ばすためには、体を動かすことに関わる器官である骨、関節、筋肉、腱、靭帯と、それらに関わる神経の健康を保つ必要があります。

当院の整形外科では、専門分野である肩関節において、関節鏡を用いた体に優しい治療を行っています。また、専門性を重視した最新かつ最善の治療を提供することで、患者様の健康寿命を少しでも伸ばしたいと考えています。



からだに優しい治療を目指して

当院の他の診療科では、内視鏡を用いた検査・手術が積極的に行われていますが、整形外科においても、いち早く関節鏡（内視鏡）を治療に取り入れ、患者様の体に優しい治療を行っています。

関節鏡を使った手術は、数mmの小さい穴を数箇所作って、そこから関節鏡や器具を入れて、内部を観察しながら操作を行います。関節鏡手術は傷口が小さく、患者様にさまざまなメリットがある、最新の手術方法です。

関節鏡（内視鏡）手術の利点

1. 体に優しい手術

体を切り開く手術は、表面の正常な組織を切る必要があるが、関節鏡手術は表面の正常な組織をほとんど損傷せず、傷も小さく体への負担が少ない。

2. 手術の後の痛みが少ない

多くの患者様が、関節鏡手術の方が痛みは少ないと回答。

3. 動きの制限が残りにくい

切り開く手術は、術後に動きが硬くなり動作に制限を生じることがしばしばあるが、関節鏡手術では、動作の制限が少なくすむ。

関節鏡手術を行っているおもな肩関節の病気

五十肩（肩関節拘縮）

肩関節は肩甲骨と上腕骨が関節包（かんせつほう）という袋で包まれています。その関節包が硬くなることで、動作時だけでなく、夜に痛みが生じたり、腕が上がらなくなる病気です。

明らかな外傷やきっかけが無く、自分

では気付かない外傷や負担が原因ともいわれ、徐々に痛みが現れ、肩関節の動きが制限されてきます。

治療は肩関節への注射やリハビリテーションを行い、ほとんどの場合、やがて改善していきますが、長期にわたって改

善しない場合や骨折や大きいケガの後に腕が上がらなくなった場合などは、手術が必要な場合もあります。手術では、関節鏡手術で硬くなってしまった関節包の一部を切り離します。

腱板断裂

「腱板」は肩甲骨と上腕骨をつなぐ筋肉で、肩の奥深くにある腕を上げるのに使う4つの筋肉の総称です。これらの筋肉がバランスよく働くと、肩を痛みなく動かすことができますが、筋肉の一部が切れてしまうと、さまざまな問題が起こってきます。

原因は、スポーツや仕事による肩への過度の負担が挙げられます。症状はさまざまで「肩が上がらづらい」、「重だるい」、「すぐに腕が疲れる」、「ひっかかる感じがする」などがあります。腱板断裂はレントゲンでほとんど異常が見られないため、MRI検査で診断をします。

治療は、まず痛み止めの内服、注射、リハビリテーションなどを行います。しかし、これらの治療は、あくまで症状の改善が目的であり、根本的な治療は手術になります。手術には、肩を大きく切る「直視下手術」と関節鏡を用いる「関節鏡下手術」がありますが、当院では、関節

鏡による手術を基本としています。

手術に踏み切るのは難しいかもしれませんが、初めは筋肉（腱板）のごく一部の断裂でも、ほとんどは時間が経つにつれて断裂の範囲が徐々に大きくなり、場合によっては腕が上がらなくなります。断裂が大きい場合や断裂してから長期間が経過すると修復が困難なため、術後の回復に影響したり、関節鏡手術で対応できないことがあり、できるだけよい条件のうちに修復することが大切です。



【術前】腱板が断裂している



【術後】腱板が修復されている



【術前】○で囲った白い部分が断裂部分



【術後】○で囲った部分は修復されている

石灰沈着性腱板炎

肩の奥深くにある肩甲骨と上腕骨をつなぐ腱板の中に、白い泥状の物質（石灰）が溜まり、周りにある滑膜という薄い膜に炎症を及ぼすことで激しい痛みや腱板の動きを妨げたりする病気です。原因ははっきりと分かっていませんが、40～

60歳の女性に多いといわれています。

激しい痛みが特徴で、痛みが落ち着いた後でも肩を動かしたときに引っかかる感じがすることもあります。

痛みが強い場合は、注射と内服で治療しますが、それでも痛みがひかない場合

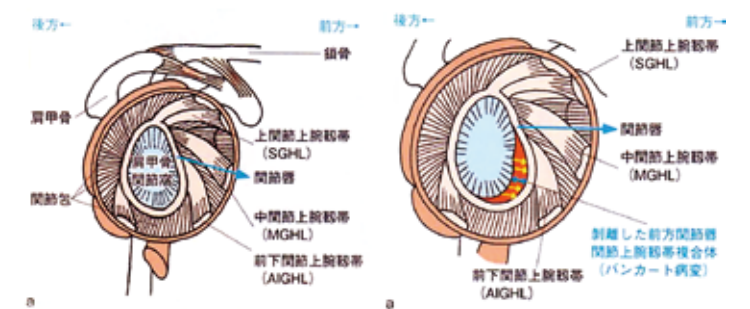
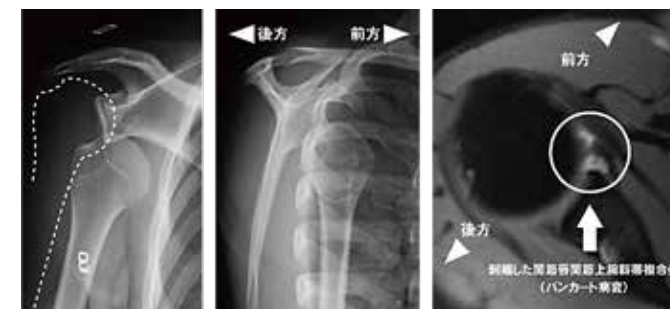
や引っかかる場合は、関節鏡手術を行います。手術では石灰の沈着部位を確認し、白い泥状の石灰を取り除きます。

肩関節脱臼（反復性）

腕の骨が本来の位置から外れた状態になることで、多くは肩を強くぶつけたり、手が思いもよらぬ方向にもっていかれることで生じます。一度脱臼すると癖がつき、その後もそれほど強い力が加わらなくても脱臼するようになります。

脱臼は激しい痛みを伴い、整復されても数日は激しい痛みや違和感が残り、その後、通常の動作ではあまり問題にはなりません。脱臼を繰り返すと、着替えや寝ているだけで脱臼をおこすようになります。

脱臼して来院された場合には、腕を上げる、うつ伏せでおもりをぶら下げるなどの方法で整復しますが、根本的な治療は手術になります。当院では基本的に、関節鏡を用いた体に優しい手術を行います。



【正常な肩関節】

【脱臼した肩関節】

※再脱臼の原因は、現在もっともよく知られているものが、関節唇損傷と呼ばれるもので、バンカート病変と呼ばれます。

肩鎖関節脱臼

鎖骨が上方に飛び出してしまった状態で、多くは肩を強くぶつけたることによって生じます。

激しい痛みが生じますが、肩関節とは違って全く腕を動かさないわけではなく、脱臼したままでも痛みは少しずつ和らいでいきます。軽度の場合は、経過観察を行

い、重度で生活に支障がある場合は手術を行います。

当院では、脱臼してすぐの場合は関節鏡手術を行い、時間が経過している場合は人工靭帯と手の腱の移植を併用した手術で対応します。



佐野病院整形外科
南村 武彦（なむら たけひこ）
平成26年4月入職。肩関節・上肢・外傷を中心に診療を行う。また、体に優しい関節鏡手術を取り入れた手術を実践している。